分の姿が入つたらしい。彼女はばたばたと身動きした。赤い羽の小鳥が羽ばたきでもするかの様に。眩しい熱帶の晝頃の太陽の下で赤い羽の小鳥は何か强い衝動をでも受けたかの如くばたばたと鳥籠ならぬ小船の中で羽ばたきしたのである。自分は靜かに之れを見守つた。そして帆前船がヂブチの陸に着いたと思はれる頃から間もなく「ゼネラル・メッサンゼー」は靜かに錨を捲いてヂブチの港を出たのである。(完)

(一九三一・六・二五稿)

新著紹介

○陸地測量部發行地圖目錄

昭和六年九月現在

陸地測量部發行　定價貳拾九錢

元陸地測量部班長　五藤儀男著

陸地測量部長　石井英橘校閲

發行所　川流堂　定價貳拾五錢

右の二册は定價の示す如く、如何にも小册子ではあるが單に地學研究者のみに止らず、一般人いやしくも陸地測量部の地圖を利用する者は誰も持合せたきものと思ひ紹介す。

前者は目錄ではあるが地圖購入の場合最新發行年月の物を知る上に重要な役目をして呉れる。修正測量前の地圖は勿論特殊な比較(同一地)をなす場合の他は地方の書籍店で知らずに買はされる事がある。又此の小册子は大正六年制定地形圖圖式が挿入してある故、地圖の欄外にも無き記號を知る事が出來る。

後者は測量實行者が地形圖利用者への說明で圖式說明を述べてある。地形圖の投影は何を用ひてあるか、實際の面積、方位、海岸線は何を基に採りしか等、字の大さに依つて山脈の長さ、居住地の人口、建物の廣さ、公園の如き諸地物の廣さ等々の大略を知る事を說明してある。今少し軍隊式に徹底した說明がほしいがパンフレッドの紙數止むを得まい。兎に角此の二册子が地形圖の傍に在れば普通の實地踏査以上の効果をあげ得ないでもない。(副島)

○世界地理精義

上卷　仲原善忠著

文化書房發行　定價五圓

地文現象に偏した世界地誌が正鵠を缺くならば人文現象に偏した地誌も同じ。小川博士が地理的人類活動を演劇に例へて人物を舞臺とし、兩者相待つて人類活動を研究すべきであると說かれた。此の見解を忠實に守り、人類活動の歷史的地誌をよく從來の地誌的記述と結び付け、それが旅行觀察を經に入れて織り出されてゐる。英雄の歷史、强國の地誌の誹から避けやうと努力してある。新しき地誌開拓を衷心から喜ぶ。

フリーハンドの挿畫はそのオリヂナルな點大いに賞すべきだがもつと美麗に出來ぬものでせうか。緒論の氣候區と地誌の分區と一致せぬのが木竹接續の感を與へないでもない。中下卷の出版以前に希望を添へて諸賢に御すゝめする。（副島）

○大阪に於て德川中期以後に出版された地理書目錄

さきに大阪市書籍出版業組合には享保十一年より明治六年にいたる（一七二六―一八七三）約百五十年間の書籍出版許可の綴りが保存されてゐることを報告したが、今般同出版業組合長博多久吉氏の好意により右書籍目錄のうち特に地理學又は地圖に關するものゝみを摘出してこれを讀者に報告することを得たのである、今之を通覽して氣のつくことはいつの世でも同じではあるが、旅行に關する地圖や、道里の記述が最も多く、同じ種類のものが年をへて改刻され改題されてゆくことである、例令ば日本道中行程記が增補されてのちしばらくにして海陸行程細見記となり大日本道中行程細見圖ともなつた如く、諸國の國圖、名所案內も同樣、各道別の道中記名所記、順禮記、さては、金比羅參り、四國遍路といふ類が同じ本屋から何回となく重刻されて行つたのである。さうして旅行に地誌と案內圖が必携となつて行つた樣子が明にされてゆくのである。さうした通俗本の中で、大阪出版界の誇りは安永七年に長久保赤水の新刻日本輿地路程全圖を出したことで、其後天保三年、寬政八年、文化三年、天保四年、十一年等何回となく改刻出版したことゝ、寬政八年に橋本氏の和蘭新譯地球全圖を出したことである。前者は我國の日本地圖出版の一新紀元をなしたものであり、後者は日本で兩半球圖の出た嚆矢である。勿論これに先つて司馬江漢の出版もあるが、それは不許賈人と題してあつたのである。又寬政頃に泉州堺の貝塚に自ら望遠儀をつくつて天體觀測を實行した岩橋善兵衛といふ偉人があつたが、その人が享保元年に平天儀一枚招及平天儀圖解を出したことも、近世科學の歷史では注目すべき事實の一であつた、但しこの後の方を享和二年九月に增補し、天文捷徑として出版しやうとした時は、曆に差構ひあるか、無いかといふ疑問を生じ、本屋行司から當時大阪の曆學者麻田立達の鑑別を煩はして、差構がないといふので、やうやく許可になつたといふ斷り書がある位であるから、この西洋科學の天文學の普及といふことは、蓋し時節柄一問題であつたのである。かくて世は寬政から享和へかけて段々とすゝみ、其後唐土名勝圖會、大淸廣輿圖など海外の智識の普及をはかるものが現はれたが、しかし一般の需要は依然として行程記名所案內、圖繪書等日本者のみに止まつて、別段の進步がなかつたのも致し方がないと考へられる。それでも明治に入ると世界風俗往來世界全圖、萬國掌覽、世界郡都往來世界の大略などいふ本が無數に出できて、通俗に海外を周知せしむるやうになつてゐるのもうれしい。就中地球儀の大小二つが（英人ヘルマンベルコース原著）和譯されて明治六年十

一月に發賣されたことの如きは實に特筆に價すると思ふ。勿論これも安政三年に既に東京で三木一光齊圖江川仙太郎刀の地球儀が杉本平兵衛佐野與市郎から發賣されてゐるし、ずつと以前に保井算哲が地球儀をつくり、その遺物の今日に傳はるものもあるけれども、まづかうしたものが、書肆の手によつて出版されてうれて行く世の中に變つたことは我地理學界の發達と見なくてはならないと考へるのである。

以上簡單ではあるが本書目を通覽した感じを略述しておいて余は讀者の研究にまかせる。（昭和七年二月　藤田元春記）

○享保年間出版書目　次號より連載す。

雜　報

○中華民國の海産物

魚翅（鱶鰭）中華民國沿岸では浙江江蘇福建の外北方にありては芝罘、最大産地は舟山列島の沈家門である。魚頭、魚皮魚肚、これも江蘇浙江の沿岸。

淡菜　江蘇浙江に産し、寧波から上海へ送くる。

蠔干　支那の東海岸の産である。

蝦米（ほしえび）　江蘇の江北、山東芝罘を主とし沿岸一帶に出る、蝦蛄、は江蘇、浙江、山東に産する。

紫菜（のり）　廣東に産するも其量少し。

鮑魚（するめ）　同前

明骨（筋魚）　福建、浙江安徽に産する。

海咸（いりこ）　浙江及威海衛に産す。

洋菜（かんてん）　浙江寧波、山東芝罘。

干貝（かいばしら）　山東芝罘に産するも少し。

香茹　冬茹、安徽、福建浙江湖南の各地に産し排日以前に既に日本品の輸入は減じた。

南洋及附近の海産物として鱶鰭はシンガポール、ペナン、爪哇、安南、シャム、比律賓、印度、土耳古、埃及、波斯等より毎年輸入される。一九三〇年輸入總額一萬一千三百擔のうち日本、朝鮮、臺灣から三千百擔しか輸入してゐない。魚皮は南洋シンガポール、ペナンより輸入される、魚肚も同樣である、干蝦と干鮑及鰕の三種は米國、ヒリツピン、カリフオルニヤから輸入され後二者は罐詰と檀入、箱入となつてやつてくる、かうしたことは排日會が、海産物をすべて日本品だとして沒收したゝめに、支那商人が之に對して、日本品は實は少い。右の通り支那産にあらずんば、南洋や北米から海産物がくるといつたので明になつた事實である。

○ニユーカレドニアと日本人

ニユーカレドニアの面積は我四國程で人口約五萬、内日本人千四百、佛人一萬四千、土人二萬七千、其他ジヤバ及トンキンからの移民少々、佛領のうちでもニツケル及クロウムの産地として世界的に名高い。

北部に Nehoue（米人經營）Pibaghi（英人經營）のクロウ